

せたがやの教育



特集 世田谷区 乳幼児教育支援センター



読んで！ せたがやの星
第28回



JAXA宇宙飛行士
星出 彰彦さん ©JAXA

令和7年7月15日 発行
世田谷区教育委員会

〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27 ☎ 5432-1111 (代)
世田谷区ホームページ <https://www.city.setagaya.lg.jp>

教育目標

幸せな未来をデザインし、
創造するせたがやの教育

4つの基本方針

<p>新しい知を 創造する</p>	<p>地球の 一員として 行動する</p>	<p>多様性を 受け入れ 自分らしく生きる</p>	<p>共に学び 成長し続ける</p>
-----------------------	-------------------------------	-----------------------------------	------------------------

世田谷区 乳幼児教育支援センター

乳幼児期は、生涯にわたるウェルビーイングの向上にとって大切な時期です。子どもたちが様々な経験を通じて自己肯定感、コミュニケーション能力、粘り強くチャレンジする力などの非認知能力を豊かに育ていけるよう、家庭や地域との連携、幼稚園・保育所等の施設の枠組みを超えた教育・保育の質の向上のため様々なサポートを行っています。



子どもまなか社会 乳幼児期の教育・保育の質の向上



家庭支援

日々の子育てをもっと楽しく

【子育て支援講座・ワークショップ】

豊かな親子関係づくりと子どもたちの健やかな成長に向けて、日々の子育てが楽しくなるよう、様々な子育て支援の講座やワークショップを開催しています。



【外遊び体験】

地域のNPO団体等と連携し、夏は水遊び、秋は落ち葉遊び等、親子で一緒に季節を体験できる遊びの場を作っています。

環境づくり

非認知能力の育成とウェルビーイングの向上

【豊かな感性を育む文化・芸術体験】

様々な経験や体験を通じて、子どもたちの「知りたい!」「やってみたい!」という気持ちを育みます。

センターでは、地域の大学と連携し、音楽や創作などの文化芸術に触れる環境づくり等に取り組んでいます。



連携

子どもの育ちと学びをつなぐ

【学び舎の取組み】

世田谷区には、公私立幼稚園・保育施設・小学校・中学校で組織された「学び舎(学舎)」があり、魅力ある教育活動に取り組んでいます。センターでは、新たに参加する園と小学校との接続や連携を促進しています。



【架け橋プログラム】

架け橋期(幼児期の終わりから小学校入学後までの2年間)の子どもたちの共通理解を図り、学びと育ちをつなげるための支援をしています。

人材育成

専門性を高め、いきいきと楽しむ教育・保育

【人材育成研修】

「教育・保育実践コンパス」の考え方をもち、専門的な知識や技術を高め、保育者自身がいきいきと主体性を発揮できるような支援をしています。



【専門人材の派遣】

教育・保育施設に乳幼児教育に係る外部有識者を派遣し、園の強みを活かす、支持的・協同的な支援を通じて、保育の質や組織力の向上につなげています。

家庭教育・子育て支援事業 家庭支援

①家庭教育・子育て支援講座

乳幼児期のお子さんがある保護者やプレパパ・ママに向け、「子どもとメディアとの付き合い方」や「おうちでの性教育」などのテーマで、日々の子育てのサポートとなるような講座を開催し、参加者同士の交流も行っています。

②ワークショップ

プレーワーカーと一緒に教育総合センターの広場や幼稚園の園庭で「四季を感じる外遊び」をしたり、絵本専門士の「絵本の読み聞かせ」や童具共育アドバイザーと一緒に遊ぶ「積み木体験」など乳幼児期に豊かな体験ができるワークショップを開催しています。

★講座内容やワークショップの内容は毎年変わります。

ご案内は区公式LINEやX、すぐるなどを通じてお知らせしていますので、皆様のご参加をお待ちしています。



大学連携事業 環境づくり 連携

昭和女子大学との連携事業『ムジカ』では、プロのアーティストによるクラシックの生演奏を鑑賞し、ワークショップでは、大学生が作成したモノコード等を用いて、一緒に楽器や音の出る仕組み等を学んでいます。

東京都市大学との連携事業では、大学生と一緒に天然粘土を使って、子どもたちが自由な発想で、身近な動物や好きな食べ物をつくる造形体験を行っています。

昨年度は親子で好きな動物の焼き物をつくる工作体験事業を行い、完成した作品を焼き上げて思い出としてプレゼントしました。



乳幼児教育支援センターリーフレット

乳幼児教育支援センターの目的や取組みを知っていただくため、「乳幼児教育支援センターリーフレット」を作成しました。

リーフレットはこちら→



コンパスフォーラム 人材育成

モデル研究や専門人材派遣事業(コーディネーター等)について、毎年取組みの成果を区内の乳幼児教育・保育施設及び小中学校向けに報告しています。

また、教育・保育実践コンパスレポートでは、より詳細にセンターや各園での取組みをご紹介しますので、ぜひご覧ください。

コンパスレポートはこちら→



キャリア・未来デザイン教育を支えるDX推進の取組み



変化の激しい現代社会の中で、一人ひとりが自ら課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できるようになるための「キャリア・未来デザイン教育」を一人1台のタブレット型情報端末(iPad)が支えています。

iPadを使うことで、友達の考えを参考に自分の考えを整理したり、これまでの学習を振り返ったりすることができ、子ども主体の「せたがや探究的な学び」を充実することができています。令和7年4月24日に東京ビックサイトで行われたEDIX(教育総合展)では、区立小学校の子どもたちが主体的に学ぶ授業を公開しました。

STEAM教育出前講座では、プログラミング教育の専門家から直接教えてもらいながら、iPadを用いて一人ひとりが体験することで、プログラミングについての知識の習得にとどまらず、デジタル社会の基盤となっているコンピュータ等についての興味を深め、「キャリア教育」としても子どもたちの学びに大きく貢献しています。

これからも子どもたちの学びをより充実したものとするために、教育DXを推進してまいります。



☎ 教育DX推進担当課 ☎6453-1506 FAX 6453-1534

世田谷区立小学校における通学路合同点検



区では、「世田谷区通学路交通安全プログラム」に基づき、区内小学校を4つのグループに分け、それぞれ4年に1回、通学路合同点検を実施しています。

各学校が抽出した安全対策希望箇所について、学校・PTA・警察・道路管理者・教育委員会等の関係機関が合同で点検を実施し、対策が必要と判断された箇所について、順次、交通安全対策を進めています。

具体例

交差点のカラー舗装、
注意喚起標示板設置、
児童への安全指導など



「世田谷区通学路交通安全プログラム」及び合同点検の対象箇所と点検結果については、直近4年度分を区ホームページにて公開しております。

今後も、学校・PTA等関係機関と連携して点検を継続し、安全な登下校環境の整備につめてまいります。

詳細はこちら→



☎ 学校健康推進課 ☎5432-2693 FAX 5432-3029

アメリカ・ポートランド市との交流事業の再開



世田谷区では令和2年度にアメリカ・ポートランド市への中学生派遣を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となっていました。コロナ禍後、令和5年度よりポートランド市のマウントテーバー中学校訪問団を受け入れています。そして、令和8年秋ごろ、ポートランド市への区立中学生の派遣再開を予定しています。

派遣概要(予定)

- 対象：区立中学2年生(派遣時)
- 募集：令和7年12月(公募※)
- 時期：令和8年秋ごろ
- 日数：10日間程度
- 内容：現地中学校訪問、企業訪問、ホームステイなど

※生徒募集については、せたがやの教育125号(12月発行)でご案内予定です。



マウントテーバー中学校訪問団による区長・教育長表敬
令和7年4月17日実施



オレゴン州ポートランド市ってどんなところ？

アメリカ北西部に位置し、都市部に機能がコンパクトにまとまった、山や川など豊かな自然に囲まれたアメリカの中でも落ち着いた地域です。また、「環境に優しい都市」として環境に配慮した街づくりやグローバルに展開している企業の本社も存在します。

これからの国際理解教育

区では、世田谷区教育振興基本計画の施策「国際理解教育の推進」の取組みとして、「英語教育」と、英語を用いてコミュニケーションを図る実践の場としての「体験活動」を柱に、区立小・中学生の国際理解教育の充実に取り組んでいきます。

☎ 教育指導課 ☎5432-2706 FAX 5432-3041

瀬田小学校一部竣工

区立瀬田小学校は、令和7年2月に改築工事が一部竣工し、1学期から新校舎での生活が始まりました。地上4階建ての校舎で、木の温もりを活かした内装設計により、児童等が見て、触れて、自然環境への関心が持てる校舎をめざしています。



☎ 教育環境課 ☎5432-2663 FAX 5432-3029



インクルーシブ教育の推進に向けて ～教育現場で子どもを支える人たち～

各小・中学校の通常の学級や特別支援学級では、配慮を要する子どもの見守りや、学習参加の支援のため、多くのサポーターや支援員が活躍し、子どもたちの学びと育ちを支えています。

学校生活サポーター (有償ボランティア)

通常の学級や特別支援学級（知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由）で、児童・生徒の見守りをするボランティアのスタッフです。



特別支援学級支援員 (会計年度任用職員)

特別支援学級（知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由）で、児童・生徒の安全管理や学習参加支援を行う職員です。



すまいるルーム・きこえとことばの教室・目の教室

特別支援教室（情緒）や通級指導学級（弱視・難聴・言語障害）では、全般的に知的発達に遅れがなく、通常の学級に籍を置く児童・生徒が、障害や発達上の特性に応じた特別な指導を受ける場です。

すまいるルーム

知的発達に遅れがなく、情緒の発達にかたよりのある児童・生徒を対象に、全般的なコミュニケーションスキルの向上に向けた指導を行う教室です。



きこえとことばの教室・目の教室

発音や聞こえ、見え方などに課題がある児童・生徒を対象に、正しい発音や聞きとる力、上手な目の使い方を身につけるための個別指導及びグループ指導を行う通級指導学級です。



☎ 支援教育課 ☎6453-1512 FAX 6453-1534

info 開催予告

特別展 世田谷の用水

期間 令和7年10月25日(土)～12月21日(日)

会場 世田谷区立郷土資料館

入場無料

かつて世田谷区内には、多くの用水路がありました。これらは、主に農業用水として利用されていましたが、現在では多くがその役目を終え、姿を消しています。この展覧会では、絵図や古文書、写真などから、用水を切り口とした世田谷の歴史を紹介します。ぜひご来館ください。



六郷用水絵図(部分)
(大場代官屋敷保存会 所蔵)



昭和25・26年頃の北沢川・鳥山川合流点(左)と現在の様子(右)



☎ 生涯学習課 ☎3429-4237 FAX 3429-4925

令和6年度 世田谷区子どもの読書に関する実態調査

世田谷区立図書館では、子どもたちの日頃の読書状況や図書館の利用状況について、5年ごとに調査をしています。令和6年度は、5歳児・小学3年生・小学6年生・中学3年生の児童生徒とその保護者各500人（無作為抽出）を対象に調査を行いました。

「本を読むのが好きですか」との問いに対し、「好き」または「どちらかといえば好き」を合わせた回答がどの年代でも6割を超える一方、「1カ月の間に読む本の冊数」に対する問いには、「1冊も読まない」と回答した割合が、小学6年生・中学3年生では2割近くになるなど、子どもたちの読書環境の課題が明らかになりました。

調査の詳細は世田谷区立図書館ホームページをご覧ください。



詳細はこちら→

子ども読書の日記念事業 『せかいでたったひとつの絵本』 はたこうしろうワークショップ



4月26日に教育会館3階「ぎんが」で、絵本作家はたこうしろうさんをお迎えし、子ども読書の日記念事業『せかいでたったひとつの絵本』はたこうしろうワークショップを開催しました。当日は、はたさんの「絵本という枠を飛び出したものを作ってほしい」という言葉をもとに、それぞれが思いのままに手を動かし、絵本作りに取り組みました。

出来上がった自慢の絵本を見せてもらうと、個性あふれる絵本ばかりでした。また、保護者の方も夢中になって絵本作りをしていたのが印象的でした。



☎ 中央図書館 ☎3429-1811 FAX 3429-7436

区立中学校の生徒や区立学校の 教職員用の防災用ヘルメットを配備します！

教育委員会では、地域コミュニティの中心であり、災害時には指定避難所にもなる区立学校の防災力向上に取り組んでおり、このたび防災用ヘルメットを学校に配備します。

災害時の身の安全確保だけでなく、中学生が日頃の訓練でヘルメットを活用することを通じて、ご家族や地域の方々へ防災意識を広めるきっかけとなり、地域全体の防災力や共助の意識の向上につながることを期待しています。

震災時の避難所運営では、実際に中学生も大きな力となったことが報じられています。この機会に、皆さんも「共助」について考えてみませんか。



☎ 教育総務課 ☎5432-2652 FAX 5432-3028

編集後記

今回の星出宇宙飛行士へのインタビューで印象に残ったのは、「また宇宙に行きたい」という言葉でした。未来への強い思いと、それを支える努力や挑戦が、新たな世界を切り拓く原動力になるのだと感じました。私たちの日々の努力も大小問わず未来へつながっています。みなさんが今頑張っていることは何でしょうか。それぞれの挑戦を大切に、自分らしい未来を築いていきましょう。

「せたがやの教育」は世田谷区HP及び広報紙閲覧サービス「カタログポケット」(多言語翻訳・音声読み上げ機能)で読むことができます。



世田谷区HP



カタログポケット

世田谷区の手続きや施設・イベント案内は
せたがやコールへ
☎03-5432-3333 Fax 03-5432-3100
(午前8時～午後9時 年中無休)



次号125号は令和7年12月に発行予定です。

JAXA宇宙飛行士の星出彰彦さんへインタビュー。子どもの頃より憧れ続けた宇宙への旅。夢に向かって挑戦し続けた道のりと、その先に広がる宇宙の景色やこれからの目標についてお話をうかがいました。

もう一歩踏み出して チャレンジしてほしい



©JAXA/NASA/Norah Moran

JAXA宇宙飛行士 星出 彰彦さん

世田谷区立二子玉川小学校出身。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒業後、UNIVERSITY OF HOUSTON CULLEN COLLEGE OF ENGINEERING航空宇宙工学修士課程修了。NASDA（現JAXA）でのH-IIロケットなどの開発業務を経て、1992年に宇宙開発事業団（現JAXA）に入社。1999年に日本人宇宙飛行士の候補者として選抜後、2001年に宇宙飛行士として認定される。2008年、2012年、2021年にISSへ向かい、様々な研究実験や船外活動等に従事した。

宇宙への憧れと挑戦

—ご出身の区立二子玉川小学校ではどのように過ごしていましたか。

二子玉川小学校は、多摩川に非常に近いということもあり、愛鳥モデル校として、野鳥の観察に力を入れていた学校でした。学校では、友達と川や近隣の林へ行き、鳥を見たりということもしていました。家でテレビを見たり、河原へ行って遊んだり、いろいろやっていたような記憶があります。また、宇宙に行きたいという思いが強くなり始めていた頃で、毎年、将来の夢を作文にするときに、パイロット、警察官、消防士とか、いろいろなことを書きつつも、やっぱり宇宙に行きたいと思っていました。

当時は、「スター・ウォーズ」が出てきた時代であり、「宇宙戦艦ヤマト」とか「銀河鉄道999」がはやっていたので、そういったところに影響を受けつつ、宇宙に対する憧れがありました。

—実際に宇宙飛行士になろうと思ったきっかけは何ですか。

私が高校生の時に、初めての日本人宇宙飛行士、毛利さん、向井さん、土井さんが選ばれたことを受けて、「宇宙飛行士という職業があるんだ」、「宇宙飛行士になれば宇宙に行けるんだ」というのが急に現実味を帯びて、それ以降、頭の片隅で、「宇宙飛行士になるためにはどうしたらいいだろう」と常に考えていました。

—宇宙飛行士になるために、学生時代はどのようなことをしていましたか。

英語と国際感覚は身につける必要があると思い、高校生のときにシンガポールの学校に2年間留学しました。英語を身につける、いろいろな国の人たちとやり取りができるようにしたいという思いから、留学に踏み切りました。

また、大学では機械工学を専攻し、理系に進みました。どうやったら宇宙飛行士になれるのかどこにも書いていないし、参考書や予備校があるわけでもないの、自分

で考えて、できることをやるぐらいしかなかったですね。

—宇宙飛行士になるための訓練で印象に残っていることを教えてください。

大変だったのは、サバイバル訓練です。宇宙から帰る際に、救助隊がいる場所に帰ってくるのが計画されますが、宇宙で緊急事態があつて急いで帰ってくる場合は、寒いロシアの山の中に降りる可能性もあるので、そういったときに生き延びられるように、サバイバル訓練をやりました。寒いし、おなかはずく中で、木を切つてたき火をしたり、テントをつくったり、体力的にきつい訓練でした。そのときはつらいと思いましたが、新しい知識・スキルを身につけることができ、やつてよかったと思いました。

宇宙から見た地球の美しさとチームの結束力

—実際に宇宙を飛んでみてどのようなことを感じましたか。

宇宙ステーションにキューポラという大きな窓があつて、そこはもう離れがたいところでした。「10分ぐらい地球を見ようかな」と思つて行くと、2時間ぐらい時間が過ぎ去っていたという経験が何度もありました。90分で地球の周りを一周するため、山、森、海、砂漠、夜の街の明かりなどいろいろな景色が次々と現れて、ものすごく美しいんです。これはもう写真とかでは切り取れない。自分の目で見ると、自分の肌で感じるからこそその美しさだと思います。

また、無重力空間では、壁から壁まで蹴つて跳んでいたり、ぶかぶかと物を浮かべせることもできるし、そういったところが楽しくて、不思議な空間です。

そして、宇宙ステーションを開発している人たちが、インストラクター、健康管理をしてくれる医師、宇宙にいる仲間、地上の管制チームの人たちがいる中で、宇宙で

様々な研究実験をすることになりますが、熱意と工夫と努力を怠らない人たちの中で一緒に仕事をさせてもらっていることに非常に幸せを感じます。

—今後の目標について

また現役として宇宙に行きたい、できれば月に行きたいと思っています。これは、世界中の宇宙飛行士が思っていることだと思います。

もう一歩踏み出してチャレンジしてほしい

—最後に、世田谷区の子どもたちへメッセージをお願いいたします。

例えば、受験だとかスポーツだとか、いろいろな世界で壁にぶち当たることがあるとは思いますが、それでもう一歩踏み出してチャレンジしてほしいと思います。私も、試験を3回受けて宇宙飛行士になりましたが、一回目あるいは2回目で挫折して、3回目の受験に踏み切らなければ、今ここでこうしてお話してはなかつたわけです。

それから、いろいろな経験をしてほしい。宇宙で活動するクルーの中には、様々なバックグラウンドを持った人たちがいます。パイロット、エンジニア、医師など、いろいろな人がいる中で、それぞれの経験をもち寄つて1つの大きな強いチームとして、宇宙で活動しています。私は宇宙飛行士になる前はエンジニアでしたが、どんな職業に就いても、いろいろな経験を

をして、いろいろなことを身につけて強く

なつてほしいと思います。



©JAXA/NASA